

# MAP CONTROLLER

fuel setting

この度は弊社製品<MAP CONTROLLER>をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。本製品はエアフロー（圧力）センサーの信号をより最適に調整することによって最適なセッティングを目指す為のコントローラーです。（以下MAPと略す）

本製品を安全にご使用して頂く為に、装着ならびご使用の前に必ず本説明書を読んで、内容を十分に理解のうえ取り付け作業をおこなって下さい。

**お願い！** 本製品は性能向上、適合追加他の理由により、頻繁に取り扱い説明書の変更をおこなっております。お手元の取り扱い説明書のVol番号が最新でない場合はご面倒でも当社ホームページ上の取り扱い説明書を参考に取り付け、調整をおこなって下さい。

## 警告 死傷につながる恐れがある事故を未然に防ぐ為の事項を示してあります。

- 運転中は、走行中に本製品を操作しないで下さい。運転操作の妨げになり、事故の原因となってしまいます。
- 本体は運転の妨げにならない場所へ固定して下さい。
- 本製品はエアフロー（圧力）センサー信号制御を目的に製作されています。配線の接続及び、使用方法を間違えると車両の不調・破損・事故をきたす場合が考えられますので十分慎重に取り扱して下さい。なを何かの原因で車両の不調・事故が発生しても当社では一切の責任を負えませんのでご了承下さい。

## 注意 負傷または、車両や商品の損傷を未然に防ぐ為の事項を示してあります。

- 取り付け作業はエンジンを停止させ、専用設備をもった安全な場所でおこなって下さい。必ず専門の業者に依頼して下さい。
- 本製品およびハーネスを高温度もしくは水のかかる場所に設置することは絶対に許して下さい。また製品を落としたり、衝撃を与えたりすると故障の原因になります。
- 製品を分解もしくは改造して使用した場合、当社では一切責任を負うことが出来ません。
- エアクリーター、マフラー等を交換、ブーストUPしてある車両は調整を間違えるとエンジン破損の可能性があります、調整は十分慎重におこなって下さい。

## 【取り付け方法】

- 取り付けには必ずセンサー別のDCMコネクタ（別売）が必要です。センサーへの接続方法はDCMコネクタの説明書を参考におこなって下さい。オス側がゴム製のDCMコネクタの場合ゴムの凸部（またはシールで記載）がロック側になりますので、向きに注意して取り付けてください
- エンジンを停止させ、エンジンキーを抜いてから**15分間以上**たってから作業をおこなって下さい。ECUのシステムが完全にOFFになるのがこの間なので、OFFになる前に作業をおこなった場合、エンジンチェックが点灯してしまいます。
- 接続図を参考に配線を接続して下さい。
- MAP本体を付属の両面テープ、またはブラケットを用いて固定して下さい。車内の運転操作の妨げにならない場所へ固定して下さい。  
\* エンジンルーム内に本体を設置させる場合は、必ず付属の防水ゴムカバーを使用して下さい。

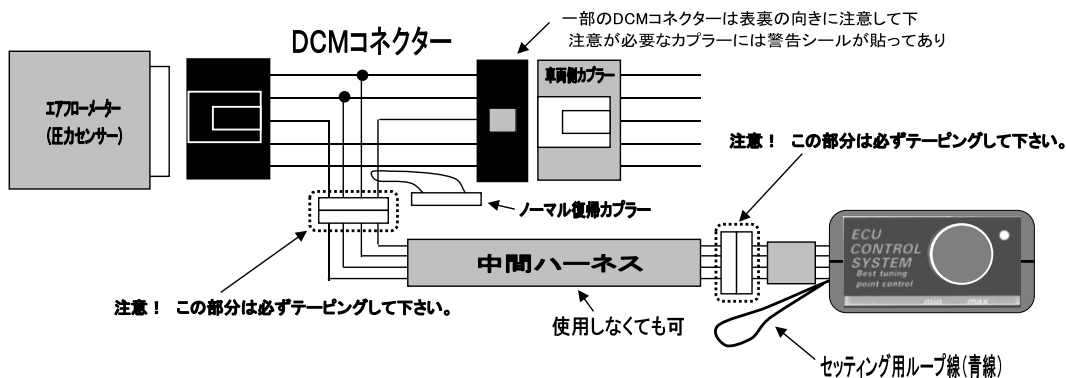
→ 中間ハーネスは使用しなくても可、セッティング時のみ中間ハーネスを使用して車内に引き込んでも可

- ◎ 本体は防水処理はされていません。エンジンルームへ固定させる時は、必ず付属の防水ゴムカバーを使用して下さい。
- ◎ 配線はファンベルトや、可動する部分に干渉しないように引き回して下さい。
- ◎ 配線は耐熱、耐火性ではないので高温部分には干渉しないように引き回して下さい。
- ◎ 配線は点火系、インジェクター系、オーディオアンプ、地デジ等のノイズが発生しやすい配線と束ねないで下さい。誤動作する可能性があります。
- ◎ DCMコネクタにある4極カバーと中間ハーネスの4極カバーは接続した後に必ずビニールテープ等でテーピングして下さい。



注意

## 【接続図】



## 【本体固定方法】

### <エンジンルーム設置の場合>

- 本体をエンジンルーム内に設置する場合は、下記点に注意して本体を固定して下さい。



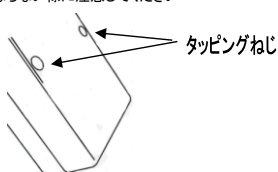
注意 本体内部は完全な防水処理はされていません！必ず下記事項を参考に本体を固定して下さい。

- ◎ 熱、水のかからない場所を選んで、本体を固定して下さい。  
例：リレーBOX横
- ◎ 調整面を必ず上側に向け固定して下さい。  
→ 本体内部の水分が下側へ逃げるように設置して下さい。
- ◎ 調整面へ防水ゴムカバーを付けて下さい。  
→ 調整面に水、埃がかかるのを防いで下さい。

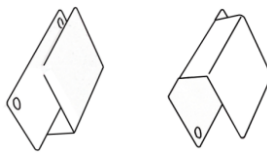
### <車内設置の場合>

- 本体を車内に設置する場合は、付属のステーを利用すると操作しやすい状態に取り付けをおこなうことが出来ます。ステーの取り付けは下記を参考にして下さい。

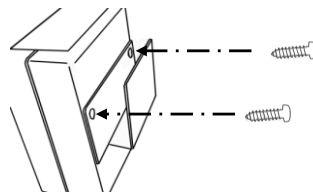
①コントローラー裏面の2本のねじをはずして下さい。  
ねじを外した際にコントローラーがバラバラにならない様に注意してください



②コントローラーがバラバラにならない様に指で押さえながら  
ブラケットのねじ穴面をコントローラーの穴位置に合わせ  
ます(ブラケットの向きはどちらでもかまいません)。



③付属の2.6×12のねじをブラケットの  
穴に通して固定します。



**【作動確認方法】**

- 本体が正常に働いているか、の判断はスムーズに吹け上がるか？LEDが点灯するか？にて確認して下さい。



アクティブLED

- ①IGキーをオンにする→LED消灯(圧力センサー仕様のNA車は点灯)
- ②アイドル時(冷間時除く)→LED消灯
- ③アクセルを強めに踏み込む→LED点灯(圧力センサー仕様のターボ車は点灯しない場合あり)



注意

\*スムーズに吹け上がらない！エンジンチェックが点灯してしまう場合は、配線の接続を再確認して下さい。

コントロールボリューム

**【調整方法】**

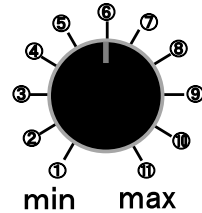


注意

- ◎ 走行中の調整は大変危険です。調整は必ず車両停止時におこなって下さい。
- ◎ セッティングが合っていない状態で走行した場合、ノッキング等が発生し、そのまま走行を続けた場合にはエンジン破損の危険がありますので調整は十分慎重におこなって下さい。(特にターボ車)
- ◎ ボリューム位置①～③にて調整・テストする場合はノッキング状態、水温、空燃比の状態を考慮した調整をおこなって下さい。

**<ボリューム調整>**

- 本体のボリュームを回すことによりエンジンフィーリングの最良の位置を決定して下さい。(11段調整)



- ①ボリュームはアクティブLEDが点灯している時に有効です。
- ②ノーマル位置→真上⑥の位置がノーマル位置になります。  
\*実際に目盛りはありませんのでセンターからのクリック数にて確認して下さい。
- ③ボリュームを右に回す(MAX側)と→燃料値が濃い(RICH)状態になります。
- ④ボリュームを左に回す(MIN側)と→燃料値が薄い(LEAN状態)になります。
- ⑤各ポジションでの燃料値の目安です。

		⑥	±0%	←ノーマル位置
-1%	⑤		⑦	+1%
-2%	④		⑧	+2%
-3%	③		⑨	+3%
-4%	②		⑩	+4%
-5%	①		⑪	+5%

**<ループ線調整>**

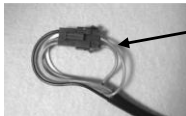
- 本体の後方より出ているループ線(青線)を<接続><カット>により高負荷時の制御状態を変更出来ます(注意！Bタイプにはこの機能がついていません)

**<接続>** 高負荷時にノーマル値になります。  
マイナス側に調整した場合でも高負荷時に燃料値が薄すぎる等の心配はありません。

**<カット>** 高負荷時はボリュームにて調整した値になります。  
★Cタイプをブーストリミッターカットとして使用する場合はループ線をカットしてマイナス側にて調整するとブーストリミッターは延長できません(この場合は燃料値が薄くなりすぎないように十分に注意して調整して下さい)。

**【ノーマル復帰方法】**

- 万が一、エンジン不調等の症状がでる、エンジンチェックランプが点灯する場合は、下記の要領にてノーマル状態へ戻して走行して下さい。



ノーマル復帰ケーブル

- ◎DCMコネクターの4極ケーブルより、MAPの4極ケーブルを抜き、DCMコネクタ側へノーマル復帰ケーブルを差しなおして下さい。

**ノーマル復帰しても不調の状態が直らない時は？**

- ◎DCMコネクタをセンサーより抜き、完全にノーマル状態に戻して下さい。
- ◎完全にノーマル状態にしても直らない場合、MAPの制御とは関係の無い部分が原因と考えられます。



重要

DCMコネクタはエンジンルーム内で使用する為、長期間使用した場合ハーネスが損傷し接触不良を起こす可能性があります。  
2年以上使用した場合には新品と交換をお勧めします

**【トラブルチェック】**

**警告** エマージェンシーモードに入り、エンジンが吹けあがらない状態になった場合は大変危険です、車両を安全な場所へ一旦停車させ、エンジンを停止し1～2分後にMAPをノーマル状態にして再始動させて下さい。

**<アイドル不調>**

- ハーネスの挿入方向、接触等を再確認して下さい。
- 取り付け作業時にバッテリーをはずしてしまった時はアイドル学習が必要です。ボリューム位置でノーマルにするか、ノーマル復帰ケーブルでノーマル状態にし、しばらく走行を続けてアイドルの学習を覚えさせる必要があります。それでも改善されない場合にはお手数ですがカーディーラー等にて確認して下さい。

**<エンジンチェック点灯、吹けあがらない>**

- ハーネスの接触、挿入方向を再確認して下さい。
- ホンダ車の場合圧力センサー付近に同形状のケーブルのスロットルセンサーがあります。スロットルセンサーのケーブルに接続した場合、正常に作動しません。→必ず圧力センサーのケーブルへ接続して下さい。

**<作業中のミス等にてエンジンチェックが点灯した場合>**

- カーディーラー等の専用機器のある工場にてエンジンチェックランプを消してもらって下さい。
- 一部の車両はバッテリーを20～30秒ははずすことにより消えます。
- ノーマル状態にて走行し、走行→エンジン停止を3～5回繰り返すと自動的に消える車両が一部あります。(参考)